

1. 宇宙利用の拡大とその可能性

- 宇宙は科学技術開発のフロンティア、経済成長の推進力
- 日豪協力はこれまでも実施
 - ・ウーメラにおける「はやぶさ2」の回収
 - ・2019年の豪州山火事対応での気象衛星「ひまわり」の活用
 - ・ISS「きぼう」における豪国花「ワトル」の実験

2. 宇宙と安全保障

- 国家安全保障における重要な領域。宇宙を活用した技術革新も進展
- 宇宙の安定的な利用を脅かす活動を懸念。
 - ・対衛星兵器(ASAT)の出現
 - ・最近のロシアによる無責任なASAT試験を懸念
 - ・中国の「長征5号」のデブリ化
- 国際的なルールメイキング・規範が重要。こうした取り組みは東シナ海、南シナ海のみならず宇宙でも必要。

3. 日本による取り組み

- 宇宙基本計画において「宇宙利用大国」となることを標榜
- 産業科学技術基盤を強化し、宇宙利用の拡大との好循環を実現させる。
- 宇宙安全保障の確立は柱の一つ。政府全体での取り組みが必要。
- OSSA(宇宙状況監視)の取り組みを開始。航空自衛隊はレーダー設置を予定。JAXAや米国とも連携。
- 航空自衛隊は「航空宇宙自衛隊」になるかもしれない。既に宇宙作戦隊を創設。

4. 同志国との協力

- ルールメイキングは他国の協力が不可欠。日米豪印首脳会談でも合意。
- 宇宙ビジネスには多額のコストがかかることも多国間協力を必要とする理由の一つ。
- 米国主導の「アルテミス」計画での豪州を含む他国との協力を期待。

5. 日豪協力の将来

- 特別な戦略的パートナーは宇宙分野でも協力することが自然。
- 日豪が異なる半球にあること、そのうえで経度が近いことも協力する上でメリット。
 - 例: イプシロンロケットの豪州からの追尾や準天頂衛星「みちびき」の豪州での活用
- 日本のロケット技術は高い信頼性を保持。
- 装備技術移転協定も有しており、高い技術と制度的枠組みで協力の深化を期待。
- ベトナム衛星の日本ロケットによる打ち上げ実績もあり、こうした協力からはじめてはどうか。
- 日本の技術をつかって豪州から豪州企業がロケットを打ち上げることは夢の一つ。その実現は「夢」というほど困難ではない。